



佐々木知彦先生の授業に行ってきました！

今回ご紹介するのは佐々木知彦先生がご担当する「物語で学ぶマイノリティ/マジョリティ」の授業です。この授業では、主に映画を分析することを通して、性のあり方や人種におけるマイノリティの問題の理解を深めます。マイノリティの歴史や現状を学びながら、受講生はグループで多様な意見を出し合い、自分たちが作品をどのように読んだのかを発信します。

映画の鑑賞と分析

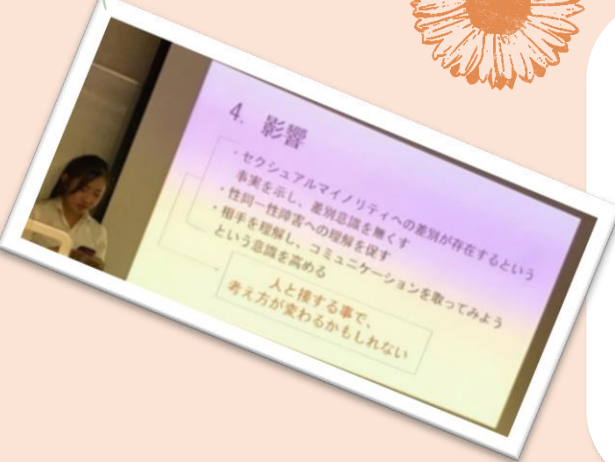
この回では、トランスジェンダー女性の生き方を描いた映画『彼らが本気で編むときは、』（2017）についてのプレゼンテーションが行われました。受講生は、この作品が有名俳優を起用したことで、セクシャルマイノリティの存在を世の中でより可視化できるという狙いは評価できる一方で、その描き方がステレオタイプの、差別的であることを指摘していました。



プレゼンテーションと振り返り

映画作品の考察内容を Power Point を使って発表しました。受講生たちは、効果的にスライドを使いながら、考察内容や自分の意見をしっかりと発表していました。

発表の最後には、LA さんによる発表の振り返りが行われ、自分自身のプレゼンでうまくいったことや今後の課題を振り返っていました。



授業の感想

佐々木先生の授業は、性や人種の多様性に触れることで、世の中や自分の中の「普通」に疑問を持つことをきっかけに、作品の読解力や論理的思考力、意見の発信方法など重要なアカデミックスキルを身につけることができるのが特徴でした。また、意見が出ないときはLAが意見を促すなど、効果的にLAさんが活躍されていました。

